

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Association of remote work with tobacco and alcohol use: a cross-sectional study in Japan 在宅勤務とタバコ・アルコール使用との関連：日本における横断研究		
<b>執筆者</b>		
Sonoda K, Okawa S, Tabuchi T.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2025 Jan 9;25(1):103. doi: 10.1186/s12889-024-21066-8.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
在宅勤務、アルコール依存、アルコール使用障害、タバコ依存、ニコチン依存、COVID-19	39780114	
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b>在宅勤務は職場の規制に縛られない働き方を可能にするが、喫煙や飲酒など健康行動に悪影響を及ぼす可能性がある。本研究は、在宅勤務とタバコ依存および有害なアルコール使用との関連を検討することを目的とした。</p>		
<p><b>方法：</b>2023年2月に、日本全国の18～64歳のフルタイム労働者8,292名を対象にインターネット調査を実施した。在宅勤務の頻度（0日、週に1日未満、週に1日以上）、タバコ依存（Tobacco Dependence Screener スコア ≥ 5）、有害なアルコール使用（AUDIT スコア ≥ 8）を評価した。多変量ポアソン回帰モデルを用いて、性別、年齢層、学歴、婚姻状況、同等世帯収入、1日あたりの労働時間、自己評価による健康度、慢性疾患、精神疾患、および居住地域を共変量とし、在宅勤務頻度とタバコ依存・有害なアルコール使用との関連を検討した。</p>		
<p><b>結果：</b>在宅勤務頻度は0日が56.6%、週に1日未満が9.9%、週に1日以上が33.5%であった。タバコ依存と有害なアルコール使用の割合はそれぞれ11.3%、17.9%であった。週に1日未満（aPR = 1.30, 95%CI: 1.07-1.57）および週に1日以上（aPR = 1.29, 95%CI: 1.13-1.47）の在宅勤務は、タバコ依存と関連していた。また、週に1日未満（aPR = 1.43, 95%CI: 1.25-1.65）および週に1日以上（aPR = 1.40, 95%CI: 1.27-1.55）の在宅勤務は、有害なアルコール使用とも関連していた。</p>		
<p><b>結論：</b>在宅勤務者では、タバコ依存および有害なアルコール使用の有病率が高いことが示された。在宅勤務者の健康行動については継続的なモニタリングが求められる。</p>		